

伝承文化の再発見

伝承文化の再発見

銚子娘道成寺

田 中 栄 子

民話や伝承は生活の古典として人から人へと伝えられて来たものですが、その土地の人々が口から口へと伝えていく中に、時代は昔昔となり、場所はある所となつて真実はいろいろと変化していくものもあつたでしょう。然し、それぞれの出来事が全く根も葉もない作り話である筈はありません。私は郷土に伝わる多くの民話や伝承を調べてみましたが、その中で一番心をひかれるのは川口明神由来でした。この話については亡夫田中幸次郎が「銚子娘道成寺」と題して本を出し、国立劇場の舞台監督鬼島志郎氏によってミュージカル化されて、銚子市民の話題になった事は、ご承知の通りなのですが、私はこの話を時代背景の立場から真実性を確かめようと、自分なりの方法で研究してみること

と致しました。

先ず銚子娘道成

寺の本をよく読み

ました。そして

“灯台元暗し”と

いう言葉の通りで

一番身近に居た私

が、この本の読み

の足らなかつたこ

とに気づきました。

この本を理解する

にはこの時代を知

る事が第一だとい

う考えのもとに改

めて日本の歴史の

勉強を始めて、自

分流の年表を作り

ました。神代から

平安朝後期まで約千二百年の歴史を天皇を中心に都の出来事と、当時の下総の国の出来事とを対称したものです、特に清明、延命姫事件に関係の深い時代を抜粋して紹介致します。

川口神社



五〇	桓武	七八一	八〇五
五一	平城	八〇六	八〇七
五二	嵯峨	八〇八	八二二
五三	淳和	八二三	八三二
五四	仁徳	八三三	八四九
五五	文徳	八五〇	八五七
五六	清和	八五八	八七五
五七	陽成	八七六	八八三
五八	光孝	八八四	八八六
五九	宇多	八八七	八九五
六〇	醍醐	八九六	九二九
六一	朱雀	九三〇	九四五
六二	村上	九四六	九六六
六三	冷泉	九六七	九六八
六四	円融	九六九	九八三
六五	花山	九八四	九八五
六六	一条	九八六	一〇一一
六七	三條	一〇二二	一〇一五
六八	後一条	一〇一六	一〇三五
六九	後朱雀	一〇三六	一〇四四
七〇	後冷泉	一〇四五	一〇六八
七一	後三条	一〇六九	一〇七一
七二	白河	一〇七二	一〇八五

伝承文化の再発見

遺唐使（空海、最澄）	九〇一
大宝律令改革	九〇一
薬子の乱←	九〇一
皇位継承の争い	九〇一
承和の乱→	九〇一
藤原氏台頭	九〇一
摂関政治の始め	九〇一
エゾ討伐	九〇一
天皇の母藤原氏	九〇一
遣唐使廃止	九〇一
菅原道真左遷	九〇一
平将門の乱	九〇一
安倍晴明朝廷で	九七四
四天王に仕える	九七四
蜻蛉日記	九八五
天皇出家讓位	九八五
源氏物語	一〇〇三
源氏物語	一〇〇三
清明死ぬ	一〇〇五
枕草子	一〇二〇
藤原氏絶頂期	一〇二〇
前九年の役	一〇五一
源頼義活躍	一〇五一
源義家活躍	一〇五一

勤行院創建（辺田）	七九六
渡海神社創建	八〇七
真福寺 和田不動尊創建	八一〇
空海、飯沼観音創建	八一〇
弘法水、鉞捨橋	八一〇
威徳寺造築	八一〇
下総飢饉	八一〇
平高望国司に	九四〇
安倍晴明生る	九四〇
延命姫生る	九六〇
晴明都を脱出	九八六
齒櫛明神創建	九八七
根本義貞出家（延命姫の父）	九八七
下総の乱（平忠常）	一〇二八
中島城主（千葉氏）	一〇二八
頼義猿田神社に戦勝祈願	一〇五八
義家矢制神社創建	一〇六四
佐貫城主（片岡氏）	一〇六四